

授業科目 (科目ID)	現代表現	担当教員  (実務経験)	秋田 松年  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高校で国語教諭として10年以上勤務。		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	「文章作法」や「文章の書き方」などの基礎・基本を習得し、社会人として求められるコミュニケーション能力等を発揮できるようにする。				
到達目標	漢字の読み書きや敬語の使い方、手紙の書き方などを習得することにより、社会人として通用する最低限の常識を身につける。				
テキスト・参考図書等	毎時間配布する資料に基づいて授業を行います。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験、小テスト、提出物、発表の内容を合わせて評価する。		
	レポート	20%			
	小テスト				
	提出物				
その他	10%				
履修上の留意事項	将来を見通して、言葉遣い等の基礎・常識・知識等を身につけるための授業である。皆さんが将来、接する人たちに対してどのように対応していくべきかを考えながら、常に新たな気持ちで毎回、出席をすること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義内容概説・句読点・原稿用紙の書き方等		
	2	文章の基礎1	誤りやすい漢字・類義語・原稿用紙の書き方等		
	3	文章の基礎2	語彙力、文章力をつける 1		
	4	文章の基礎3	語彙力、文章力をつける 2		
	5	文章の基礎4	語彙力、文章力をつける 3		
	6	文章の基礎5	語彙力、文章力をつける 4		
	7	文章の基礎6	文の乱れ・文体の統一・話し言葉・書き言葉、要約の仕方		
	8	文章の基礎7	敬語表現1		
	9	文章の基礎8	敬語表現2		
	10	文章の基礎9	敬語表現3		
	11	文章の基礎10	敬語表現4		
	12	講義・演習11	手紙の形式とマナー		
	13	講義・演習12	手紙の形式とマナー		
	14	講義・演習13	接遇表現		
15	講義・演習14	エントリーシートの書き方、授業のまとめ等			

授業科目 (科目ID)	医療倫理		担当教員  (実務経験)	尾形 敬次  市内専門学校、大学にて哲学・生命倫理学等の教育に30年以上に渡り従事	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	倫理学一般とは何か、現代の社会人に必要なモラルとは何か、医療者にとってのモラルとは何かを認識すること。医療上の具体的な倫理的諸問題を考察することによって医療者のモラルを強化すること。				
到達目標	医療倫理について理解する。				
テキスト・参考図書等	使用しない。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	期末試験とその他(授業時間に提起する課題)の総合評価		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	50%				
履修上の留意事項	倫理学は知識ではなく心構えを作る学問である、積極的に考えることが望まれる。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	倫理学	倫理学とは何か		
	2	国家と国民	主権者とその責任		
	3	医療保障政策	民主主義国家と医療保障		
	4	医療保障政策	医療者の社会的地位		
	5	医療をめぐる状況	日本の医療保障とその現状		
	6	医療をめぐる状況	疾病構造の変化		
	7	医療をめぐる状況	高齢化社会と健康寿命		
	8	医療倫理学的問題	医師のパターナリズムと患者の自己決定権		
	9	医療倫理学的問題	アメリカの医療保障とインフォームドコンセント		
	10	医療倫理学的問題	日本文化とインフォームドコンセント		
	11	医療倫理学的問題	脳死臓器移植、希少資源配分の問題		
	12	医療倫理学的問題	代替臓器の開発をめぐる問題		
	13	医療倫理学的問題	終末期医療、尊厳死と安楽死		
	14	医療倫理学的問題	オランダの安楽死法と安楽死をめぐる問題		
15	医療倫理学的問題	人間の尊厳についての考察			

授業科目 (科目ID)	心理学	担当教員  (実務経験)	菊谷 敬子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 2年間、心理学実験の一部実験授業を担当 市内大学院在籍		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	言語聴覚士国家試験の出題範囲である心理学における土台となる心理学を学び、基礎知識の理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学とはどのような学問なのかを理解し、説明することができる。</li> <li>2 心を理解するための科学的な方法について理解し、説明することができる。</li> <li>3 心と行動をつなぐ生理的基盤の基礎知識について理解し、説明することができる。</li> <li>4 基礎科学的な心理学と応用的な心理学の違いを理解し、説明することができる。</li> </ol>				
テキスト・参考図書等	教科書：言語聴覚士のための心理学 第2版 山田弘幸・編 医歯薬出版 参考図書：マイヤーズ心理学 D.マイヤーズ・著 西村書店				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験で評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	テキストと配布資料をもとに以下のスケジュールで授業を進めが、全体の進行状態に応じてスケジュール等を変更する場合もある。				
履修主題・履修内容		履修主題	履修内容		
	1	心理学とは	授業のガイダンス、心理学とは何か		
	2	心理学とは	心理学の歴史、心の測り方とその方法		
	3	感覚①	感覚とは何か、五感の仕組み、感覚モダリティについて		
	4	感覚②	感覚の感度、感覚における物理量と心理量との対応関係とその主要な法則について		
	5	感覚間の相互関連	感覚間の処理や順応の違いについて		
	6	知覚	知覚のしくみ、色々な錯視について		
	7	知覚と認知①	知覚されたものをどのように認知しているか_モデルやメカニズム		
	8	知覚と認知②	知覚されたものをどのように認知しているか_様々なタイプの認知		
	9	モチベーション(動機付け)	動因、誘因、生理的欲求、社会的欲求について		
	10	感情・情動	感情・情動とは何か		
	11	心と脳①	心と行動の生理的基盤について		
	12	心と脳②	中枢神経や抹消神経の仕組みについて		
	13	意識・注意	人の意識はどのようなモデルによって説明されるのか、注意とは何か		
	14	性格、心理学の応用	人の性格の類型論的あるいは特性論的な考え方について、臨床心理学、教育心理学等の応用的な心理学について		
15	まとめ	講義全体を通じたまとめ			

授業科目 (科目ID)	心理学	担当教員  (実務経験)	菊谷 敬子  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 市内大学大学院在籍
対象年次・学期	1年・前期	担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
授業形態	講義	担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
		担当教員  (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	教育学		担当教員	菅原 和良		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	高等学校教員としての実践や教育行政機関での教員への指導経験を持ち、教頭、校長として学校経営に取り組んだ。
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	学校教育に関する社会的、制度的な事項について学ぶとともに、それらに関連する課題の解決について考えていく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題並びにそれに対応するための教育施策の動向を理解する。</li> <li>・学校教育を媒介とし、社会教育や家庭教育、職場における人間関係や協働的な関わりについて考察し、家庭や社会におけるリーダーシップの発揮の仕方やよりよき支援者としての資質・能力を育む。</li> <li>・講義を理解しながら自分で考え、発表し、積極的に授業参加して課題解決について考えることを通し、柔軟な思考や視点、社会の一員としての教育への関わり方などの態度や方法を身に付ける。</li> </ul>					
テキスト・参考図書等	(教)教育原理					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	授業では原則毎回課題発表を行うことから、個人の発表に対する取組やプレゼン、ディスカッション、グループ協議などの演習を試験と同等に評価(評価基準)5.積極的に発言し内容が適切である。3.主体的に発言することができる。1.促して応答することができる)する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	50%				
履修上の留意事項	1.学生としての授業規律と積極的な授業参加を期待する。2.病欠、諸事情で欠席の場合は事務担当者に必ず連絡すること。3.コミュニケーションスキルを(挨拶・対話等)を身に付ける。4.授業への主体的・協働的な参加を期待する。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	教育をどのように捉えるか	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標の理解を図る。			
	2	子ども・家庭・社会	子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係について学ぶ。			
	3	公教育の組織化	公教育の組織や制度について学ぶ。			
	4	西洋教育思想の源流	教育という営みについての変遷とその理解を図る。			
	5	宗教と教育	家庭や子どもに関わる教育の思想の理解を図る。			
	6	近代教育の思想	学校や学習に関わる教育の思想の理解を図る。			
	7	新教育の思想	代表的な教育家の思想についての理解を図る。			
	8	近代学校の誕生と展開	近代学校制度の変化と動向について学ぶ。			
	9	日本における近代以前の人間形成	家族と社会による教育の歴史についての理解を図る。			
	10	日本型の学校の形成	近代教育制度の成立と展開についての理解を図る。			
	11	戦後の学校	学校をめぐる近年の変化について学ぶ。			
	12	西洋における教育の実践	西洋教育の思想と実践内容の理解を図る。			
	13	日本における教育の実践	現代社会における教育課題について歴史的な視点からの理解を図る。			
	14	資質・能力と学力	学力をめぐる概念や学習内容の変化についての理解を図る。			
	15	情報化社会の公教育	ICT教育と情報リテラシー、情報モラルについての現状と課題について学ぶ。			

授業科目 (科目ID)	基礎生物物理	担当教員  (実務経験)	近江谷 和彦  農学博士。道内国立大学大学院にて20年以上にわたり教育に携わる経験を有する		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	【生物】ヒトの体のつくりを理解する。 【物理】医療に係る物理について理解する。				
到達目標	【生物】DNAから組織までのヒトの体のつくりに加え、生物学の基本的な知識を習得する。 【物理】私たちの生活には物理学により説明できる事象が沢山あり、医療・福祉の現場でも物理学に基づいた考えは欠くことができない。この授業では、物理学の基礎を学び、理解し、それぞれの分野で私たちの生活、医療・福祉との関連性を考える。また数式を理解し、物理量の計算もできるようにする。				
テキスト・参考図書等	【生物】「生物学」 著者名:高畑 雅一ほか 発行所:医学書院 【物理】医療系のための物理学入門 著者名:木下 順二 発行所:講談社				
評価方法・評価基準	w	評価割合(%)	評価基準		
	試験	生物100% 物理70%	【生物】定期試験にて評価を行う。 【物理】定期試験、レポートを合わせて評価を行う。		
	レポート	物理30%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	【生物】授業で分からなかった部分については、人に説明できるようになるまで復習をすること。 【物理】前もって教科書を読んで授業をうけること。学んだことをその日中に思い起こすこと。疑問点が残ったら早めに解決すること。なお、数式、三角関数については予習しておくことが望ましい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生物学入門	生物という学問・生物の一様性と多様性		
	2	細胞のつくりと働き	生物の構成要素と細胞内の構造・働き		
	3	生殖と発生	子孫を残す仕組み・生物の発生過程		
	4	遺伝情報	遺伝の法則・遺伝子の構造と細胞内での発現経路		
	5	神経系	生物の様々な神経系とその役割		
	6	生命の維持と調節	代謝によるエネルギー生産・筋肉組織・内分泌系		
	7	生命の起源と進化	進化とは・生命の歴史・ヒトの歴史		
	8	物理量と人体	はじめに、生活の中の物理学、物理量と人体		
	9	力と身体バランス	力のつり合い、力のモーメント、身体のバランス、骨		
	10	熱とエネルギー代謝	熱、温度、熱・エネルギーと人体		
	11	圧力と循環・呼吸	圧力とは、圧力と流体と人体		
	12	音と聴覚・発声	波の基本的な性質、振動、音の性質、超音波		
	13	音と聴覚・発声	音の強さ、耳と聴覚、音を利用した機器		
	14	電磁気の基礎、波と画像処理	電気とオームの法則、波の性質、音波と電磁波の性質		
15	運動モデルとスポーツ、放射線と人体	仕事とエネルギー、エネルギー保存則、放射線の性質と利用			



	統計学	担当教員  (実務経験)	島森 美光  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 薬学博士 市内大学で統計学について研究・教育に従事		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	統計の基本的な考え方を理解し、データの取り扱い方法を修得する。				
到達目標	データを図表化し、その特徴を数値で表すことができる。基本的な推定や検定の方法を使うことができる。				
テキスト・参考図書等	(教)「やさしい統計学」、小林克彦監修、池田書店				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	定期試験、小テスト、提出物で総合的に評価		
	レポート	0%			
	小テスト	20%			
	提出物	30%			
	その他	0%			
履修上の留意事項	ルート機能が付いた電卓があれば持参のこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	データの取り扱い	統計学の概要、代表値		
	2	データの記述	度数分布表とヒストグラム		
	3	データをばらつきを表す値(1)	散布度		
	4	データのばらつきを表す値(2)	正規分布、変動係数		
	5	データのばらつきを表す値(3)	箱ひげ図		
	6	データの特徴を図で表わす	グラフの種類と特徴		
	7	データの分類	尺度		
	8	二つのデータの関連性(1)	相関		
	9	パソコンでのデータの取り扱い(1)	エクセルを用いたデータのまとめ方		
	10	二つのデータの関連性(2)	疑似相関		
	11	パソコンでのデータの取り扱い(2)	エクセルを用いた図表の作成		
	12	推測統計学	推定と検定		
	13	仮説検定	仮説検定の方法		
	14	パソコンでのデータの取り扱い(3)	エクセルを用いた統計処理		
15	多変量解析	回帰直線と回帰係数			

授業科目 (科目ID)	英語 I		担当教員  (実務経験)	板東 眞一  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高校で英語教諭として10年以上勤務。		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	英語 I では、英語によるコミュニケーションを図るための基本的な資質・能力を育成することを目的とする。					
到達目標	①平易な英語で話したり書いたりできる。②日常生活に関する平易な英文を読んだり聞いたりできる。③医療に関する基本的な専門用語を理解できる。					
テキスト・ 参考図書等	(教)LET'S MAKE IT SIMPLE! (レッツ・メイク・イット・シンプルーはじめての実践英語ー) 著者名 森田和子・高橋純子・北本洋子 発行所 三修社					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	①すべての評価は、到達目標に照らして行う。 ②提出物の完了を成績評価の前提とする。 ③その他は、授業参加と授業への発言回数を評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	20%				
その他	30%					
履修上の 留意事項	医療の専門職を目指すものとして、真摯で意欲的な学習を期待する。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	My Family	形容詞、名詞、SVC、家族に関する表現			
	2	My Family	形容詞、名詞、SVC、家族に関する表現			
	3	Our Campus	前置詞、場所に関する表現			
	4	Our Campus	前置詞、場所に関する表現			
	5	Jobs and Workplaces	SVO、仕事に関する表現			
	6	Jobs and Workplaces	SVO、仕事に関する表現			
	7	Everyday Activities	人称代名詞、疑問文、否定文、日常生活に関する表現			
	8	Everyday Activities	人称代名詞、疑問文、否定文、日常生活に関する表現			
	9	Transportation	命令文、交通機関に関する表現			
	10	Transportation	命令文、交通機関に関する表現			
	11	Part-time Jobs	形容詞、数に関する表現			
	12	Part-time Jobs	形容詞、数に関する表現			
	13	Health & Illness	疑問詞(1)、健康や病気に関する表現			
	14	Health & Illness	疑問詞(1)、健康や病気に関する表現			
15	学習のまとめ	振り返り				

授業科目 (科目ID)	英語Ⅱ	担当教員  (実務経験)	板東 眞一  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高校で英語教諭として10年以上勤務。		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	英語Ⅱでは、英語によるコミュニケーションを図るための基本的な資質・能力を育成することを目的とする。				
到達目標	①平易な英語で話したり書いたりできる。②日常生活に関する平易な英文を読んだり聞いたりできる。③医療に関する基本的な専門用語を理解できる。				
テキスト・ 参考図書等	(教)LET'S MAKE IT SIMPLE! (レッツ・メイク・イット・シンプルーはじめての実践英語ー) 著者名 森田和子・高橋純子・北本洋子 発行所 三修社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①すべての評価は、到達目標に照らして行う。 ②提出物の完了を成績評価の前提とする。 ③その他は、授業参加と授業への発言回数を評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	30%				
履修上の 留意事項	医療の専門職を目指すものとして、真摯で意欲的な学習を期待する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	Shopping	疑問詞(2)、買い物に関する表現		
	2	Shopping	疑問詞(2)、買い物に関する表現		
	3	Leisure	時制、時間に関する表現		
	4	Leisure	時制、時間に関する表現		
	5	College Life	助動詞、学校生活に関する表現		
	6	College Life	助動詞、学校生活に関する表現		
	7	Countries	比較、天候に関する表現		
	8	Countries	比較、天候に関する表現		
	9	Taking a Trip (1)	文構造・文法事項の復習(1)、海外旅行に関する表現		
	10	Taking a Trip (1)	文構造・文法事項の復習(1)、海外旅行に関する表現		
	11	Taking a Trip (2)	文構造・文法事項の復習(2)、海外旅行に関する表現		
	12	Taking a Trip (2)	文構造・文法事項の復習(2)、海外旅行に関する表現		
	13	Presentation	海外旅行プラン作成		
	14	Presentation	海外旅行プラン発表		
15	学習のまとめ	振り返り			

授業科目 (科目ID)	保健体育 I		担当教員  (実務経験)	大楽 敏夫  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高校で保健体育教諭として40年以上勤務		
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	自分の健康と人々の健康のあり方について学ぶ。、スポーツをとおしてその意義と重要性を知るとともに、人とのコミュニケーション能力を養う。					
到達目標	健康の考え方の変化および食事の大切さや運動の必要性を理解するとともに、生活習慣病や感染症など現代の健康問題とその対策を学ぶ。スポーツをとおして心身の健康を維持・向上させるとともに、他者を思いやる心を養う					
テキスト 参考図書等	大修館現代高等保健体育					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	・定期試験50%—解答率の評価 ・平常点20% (レポート—内容・丁寧さ、小テスト—解答率の評価(学習のまとめで実施)、提出物—期日日厳守) ・体育実技30%—取り組み・姿勢・協調性など総合的に判断 (段階評価:5応用的に動くことができる/4周りを巻き込んで積極的に取り組める/3進んで参加できる/ 2基本的ルールを知っている/1自ら動き出すことが少ない)			
	レポート	20%				
	小テスト					
	提出物					
体育実技	30%					
履修上の 留意事項	保健の講義は教室で行う。体育は北海道スポーツ専門学校の体育館を利用する。服装は運動に適した服装で参加する。					
保健  履修主題・内容	回数	履修主題		履修内容		
	1	オリエンテーション		1年生の保健体育の授業内容と授業の進め方及び留意事項の確認と生徒理解		
	2	私たちの健康のすがた		わが国の健康水準の向上の背景と健康問題の変化について		
	3	健康のとらえ方		健康についての多様な考え方と健康の成り立ちとその要因について		
	4	健康に関する環境づくり		健康づくりを支える環境の重要性とヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりについて		
	5	生活習慣病とその予防		生活習慣病とその予防と防止について		
	6	食事と健康		健康的な食生活の重要性と意義及び健康的な食生活の形成について		
体育  履修主題・内容	7	運動と健康		健康からみた運動の意義と健康づくりのための運動習慣の形成について		
	8	スポーツの実践(1)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)		
	9	スポーツの実践(2)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)		
	10	スポーツの実践(3)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)		
	11	スポーツの実践(4)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)		
	12	スポーツの実践(5)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)		
	13	スポーツの実践(6)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)		
	14	スポーツの実践(7)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)		
15	スポーツの実践(8)		準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			

2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学校

言語聴覚学科

授業科目 (科目ID)	医学総論		担当教員	菅原 直毅		
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	医学博士 国内外の大学で研究教育に30年以上従事。
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	医学・医療を社会医学的な観点から理解する。					
到達目標	社会医学統計数値を理解する。					
テキスト・ 参考図書等	(参)わかりやすい公衆衛生学 著者名:清水忠彦 発行所:ヌーヴェルヒロカワ					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	講義終了後、国家試験に準じた定期試験を実施する。 60点未満者は再試験を受けること。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	パワーポイントで実施するので、資料が膨大になる。整理整頓を要する。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	医の倫理、医療行為	医療行為とは			
	2	健康と疾病の予防	病気と健康とは何か			
	3	健康と疾病の予防	予防とスクリーニングを知る			
	4	人口統計	人口構造を知る			
	5	人口統計	人口構造を知る			
	6	疾病構造の現状	主要四死因を知る			
	7	悪性新生物と生活習慣	悪性新生物の罹患と死亡を知る			
	8	悪性新生物と生活習慣	悪性新生物の罹患と死亡を知る			
	9	医療制度と国民医療費	医療制度と医療費を知る			
	10	医療制度と国民医療費	医療制度と医療費を知る			
	11	感染症問題	感染症の現状を理解する			
	12	母子保健	母子保健に関する指標を理解する			
	13	環境	地域・地球環境の問題点を理解する			
	14	疫学統計	疫学とはどんな学問か			
15	疫学統計	疫学とはどんな学問か				